

無加温半促成スイートコーンの栽培法と適品種

平坦地域の無加温半促成スイートコーンは、1月下旬にセルトレイに播種し、2月上旬に移植することで、5月1日頃に収穫でき収量も多い。その後は、2月下旬まで数回に分けて直播することで、5月中旬までの継続収穫が可能である。株間は25 cmが商品価値の高いⅡ級以上の収量が多く優れる。品種は先端不稔の程度が軽く、収量、品質に優れる「ゴールドラッシュ」が有望である。

農業研究センターい業研究所作付体系研究室(担当者:山並篤史)

研究のねらい

本県平坦地域では、ハウス抑制品目の後に栽培される春メロンの収益性が、近年の価格低迷や重油高騰により低下している。このような状況のなか、春メロンからの転換品目の一つとして、無加温で栽培が可能で労働時間が少ない半促成スイートコーンが考えられる。そこで、早期から継続して多収穫が得られる栽培法、および先端不稔の程度が軽く、収量、品質に優れる品種を明らかにする。

研究の成果

1. 2月上旬以降ハウスが利用できる場合には、1月下旬にセルトレイに播種し2月上旬に移植する栽培法が、単価の高い早期(5月1日頃)に収穫でき、収量も多い(表1、図1)。
2. 播種から3月上旬までのトンネル被覆により収穫時期が前進するが、その効果は小さい(図2)。
3. 播種日が同じであれば直播栽培と移植栽培との間に収量、品質の差はなく(データ略)、2月上旬以降2月下旬まで数回に分けて直播することで、5月中旬までの継続収穫が可能である(表1、図1)。
4. 株間については15~30 cmの範囲で検討した結果、25 cmが商品価値の高いⅡ級以上の収量が多く優れる(図3)。
5. 品種は半促成栽培で問題となる先端不稔の程度が軽く、収量、品質に優れる「ゴールドラッシュ」が有望である(図4、図5)。

普及上の留意点

1. ハウス内は風が弱く花粉が散りにくいので、送風等により受粉を助ける必要がある。
2. 試験は抑制トマト後作のビニルハウス(カーテン1重)で実施し、畝幅1.6 m、2条植え、黒マルチ栽培とした。移植栽培は200穴セルトレイで14日間育苗した3葉期の苗を移植した。

表1 半促成スイートコーンの作型表

品目	月	1月	2月	3月	4月	5月
前作(例:抑制トマト)		■				
半促成スイートコーン						
移植栽培			■	■	■	■
直播栽培			■	■	■	■
	播種	移植	収穫			

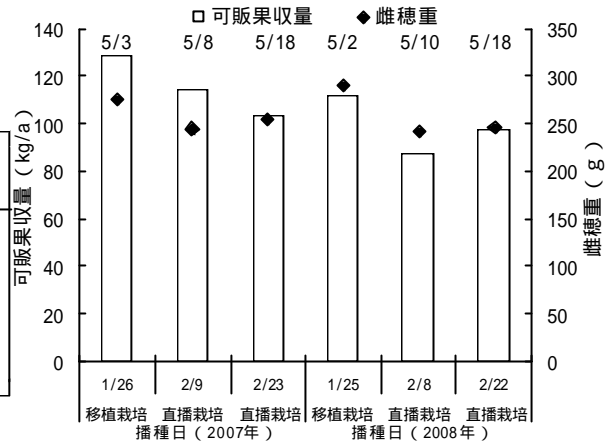


図1 播種時期と収穫時期・収量

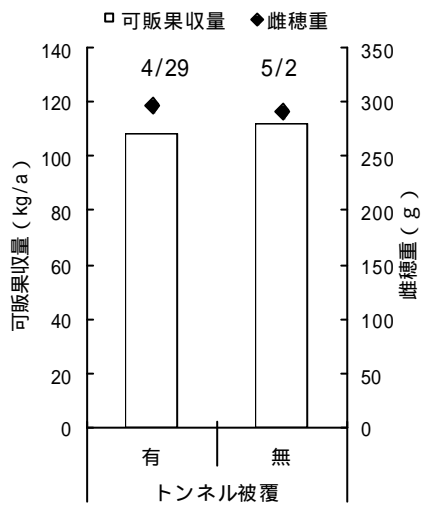


図2 トンネル被覆と収穫時期・収量(2008年)

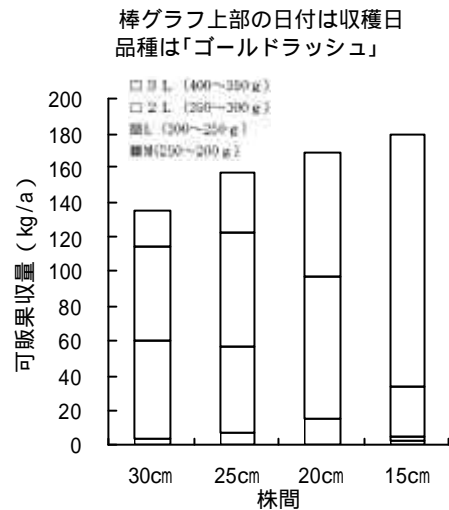


図3 株間と階級別収量(2008年)

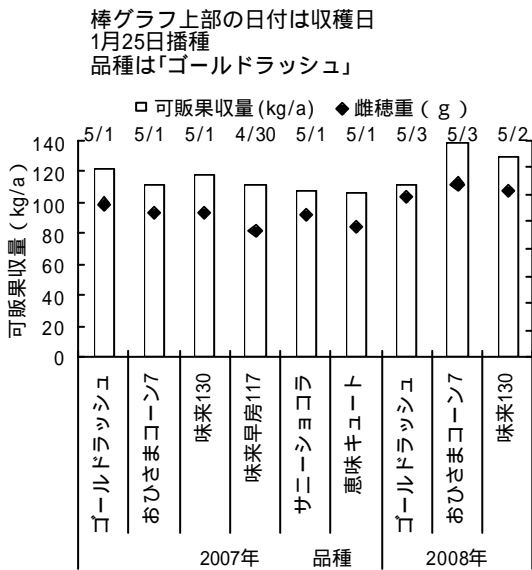


図4 品種と収穫時期・収量

棒グラフ上部の日付は収穫日
2007年は1月26日、2008年は1月25日播種

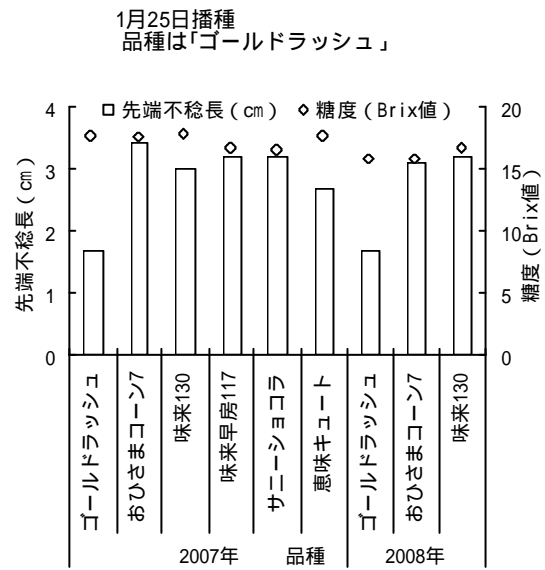


図5 品種と品質

2007年は1月26日、2008年は1月25日播種